

項目	説明	
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	ゼノグラフトモデルを用いた遺伝子変異由来がん抗原の同定
	研究目的	最近、がん細胞の遺伝子解析が比較的容易に実施できるようになり、変異遺伝子を標的とする個別化治療が一般化されつつあります。本研究では、先行研究（倫176:「超免疫不全NOGマウスを用いたヒト臨床がん材料のin vivo新規評価系の開発と研究への利用」で2010年9月27日から2016年3月31日に実施）で確立された膵臓がん・胆道がんマウスモデルに由来するがん細胞の遺伝子解析、および、ペプチド解析により、変異遺伝子に由来するがん抗原を効率的に同定する手法を確立します。本研究の成果として、変異遺伝子を標的としたがん免疫治療の開発に有用な知識・技術が得られるものと期待されます。
	研究期間	西 暦 2 2 0 1 7 年 9 月 2 1 日 ~ 西 暦 2 0 2 1 年 3 月 3 1 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input checked="" type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input checked="" type="checkbox"/> その他(マウスに移植し樹立 <input type="checkbox"/> 毛髪 <input type="checkbox"/> 診療記録            したがん細胞株)	
試料・情報の 管理について の責任者	研究責任者	笹田哲朗
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	臨床研究所
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	東京大学アイソトープ総合センター 川村猛(プロテオミクス研究室・准教授) 東京大学先端科学技術研究センター 油谷浩幸(ゲノムサイエンス分野・教授)